

北海道にいかっぴピーマン

niikappu HOKKAIDO

新冠町のピーマン栽培は、昭和55年に5戸の生産者により露地栽培が始まり、昭和61年からハウス栽培が始まりました。収益性の高さなどから、作付け面積は拡大し、平成10年には約10ha、26戸で販売額1億6千万円を超えるまでに成長しました。

平成11年に選果場を新設したことで、集荷・選別に係る労働時間の短縮や生産規模拡大が図られ、作付け面積、販売額は右肩上がりに拡大、さらに平成23年度より開始された新冠町農業支援員制度により、将来の担い手と成り得る研修生を受入れ、新規就農者や若い後継者の増加が図られ、平成28年には20haを超える作付け面積となりました。

生産量が増え続ける一方で、既存の選果施設では処理能力が限界となり、平成28年度より約1.5倍の機能を有する新選果場を導入し、集出荷体制の確立を図りました。

現在では、北海道産シェアの約70%を占める一大産地へと成長し、令和5年・令和6年は2年連続で販売額が10億円の大台を突破しております。

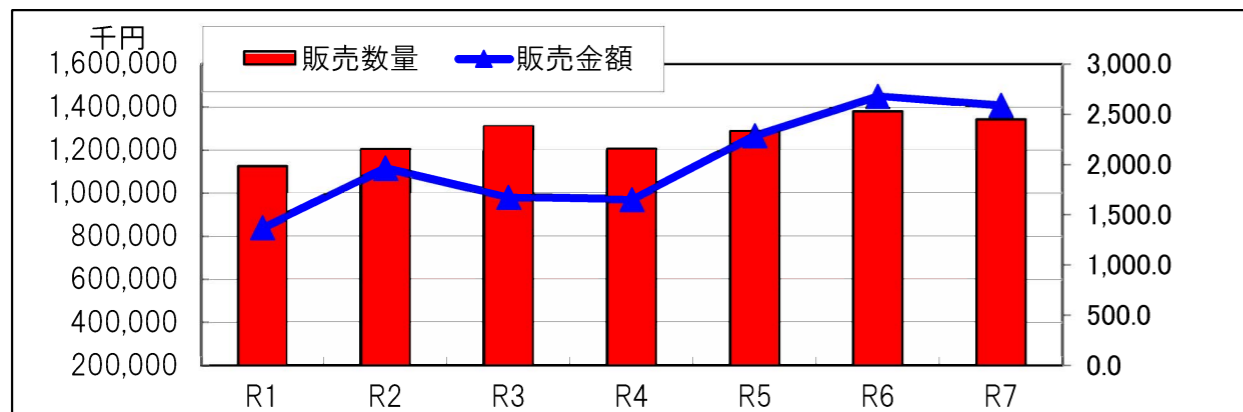
これからも、高品質かつ安定した生産・出荷が求められている責任を自覚し、全国の消費者に信頼される産地を目指し日々取り組んでいます。



【生産量及び販売高】

年度	戸数	面積	数量	金額
R1	47戸	22.3 ha	1,985.7 t	840,934 千円
R2	47戸	23.6 ha	2,154.8 t	1,116,281 千円
R3	46戸	24.8 ha	2,380.4 t	982,179 千円
R4	47戸	24.4 ha	2,158.2 t	972,427 千円
R5	49戸	25.4 ha	2,333.5 t	1,267,567 千円
R6	48戸	25.4 ha	2,532.4 t	1,451,607 千円
R7	50戸	25.5 ha	2,450.5 t	1,409,225 千円

ピーマン生産部会 役員



ピーマン生産部会 青空研修会の風景



【特徴】

品種は、「みおぎ」果実が大きく育ち、果肉が薄く苦味も少ないのが特徴で、すべてハウスで栽培されていることから、天候の影響が少なく良質製品の安定供給が可能となっています。

新冠町では、馬産地の特性を活かし、良質な有機堆肥を使った土づくりに力を入れています。その土壌から成長したピーマンは甘みがあり、瑞々しく、生で食べても美味しいのが特徴です。

また、すべての栽培農家がエコファーマーの認定を受け、良質なピーマン生産を心がけています。

ピーマンはビタミンCが豊富なうえ、ビタミンPの特性から熱を加えてもビタミンCが壊れづらく、炒め物などにも最適な野菜です。

【ピーマン選果場】

平成23年に、現有設備の小袋詰め自動包装機を重量選別機に入れ替え、需要が高まる小袋販売に対応しうる生産体制の整備を図ってきた。

しかしながら、平成26年頃から新規就農者や他町村からの参入などにより栽培面積が増加し、現有設備の処理能力では対応しきれない状況になり、更には現有設備の更新時期を迎えていることから、選果機械の能力向上を含めた選別施設を新設し、更なるピーマン産地としての発展を目指すものとする生産者の声を踏まえ、市町村へピーマン集出荷選別施設事業の要請をし、平成27年に約1.5倍の能力を持った新選果場を完成させた。

【地域ブランドの確立】

平成23年度から町内で6次産業を推進すべく関係機関との協議が始まり、地場産品を使った新商品の開発が進められることになりました。

平成24年度にはご当地グルメ検討委員会が発足され、全道一の出荷量を誇るピーマンに的を絞った商品の開発が進められることになり、試作段階で、思いつく限りの様々な商品の試作と試食会を重ねた結果、平成26年から「にいかっぴピーマン羊羹」、「にいかっぴピーマンチップス」を、平成27年からは「にいかっぴピーマンソフトクリーム」の販売が開始され、新冠町を訪れる方より人気を博しております。

さらに、民間事業者による「ピーマンかまぼこ」や「ピーマンみそ」などの開発も相次ぎ、今や新冠町の名物として、無くてはならない存在となっております。

また、令和2年度には、特許庁より「地域団体商標」として「にいかっぴピーマン」が登録され、自他共に認める地域ブランドとして、道内外に発信されることを期待しております。